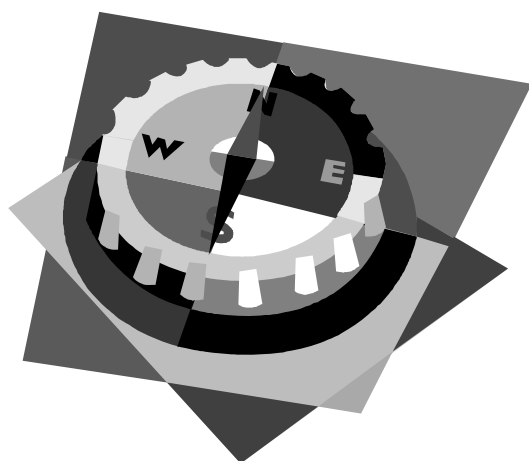


第2章

総合教育センターにおける研修



総合教育センターでは、経験の浅い教員の力量を高め、生徒指導の基本的な知識・技能を習得することを目的として、生徒指導に係る初任者研修の体系を再構築しました。再構築に当たっては、生徒指導に必要な事項を「学習指導要領」総則第5款を参考に、下に示す「4本の柱」に整理し研修プログラムを構成しました。この研修プログラムについては、本冊子P.48を参照してください。

この章では、研修プログラムの全14講座の内、9講座についての研修概要とそれを踏まえた校内研修への提案を示します。

学校の実践力を高めるためには、総合教育センターで行う集合研修と学校で行われる校内研修を効果的に結びつけることが必要です。第3章で紹介する組織的な校内研修を企画するための指針として活用してください。

● 4本の柱

総論	P. 14・15
I 教師と生徒の信頼関係の確立 ①P. 16~19 ②P. 20~23 ③P. 24~27	
II 生徒相互の好ましい人間関係の育成	P. 28~31
III 生徒理解の深化 ①P. 32~35 ②P. 36~39 ③P. 40~43	
IV 主体的な判断、行動により自己を生かす生徒の育成	P. 44~47

【かながわの生徒指導 総論】

講義 「『かながわの支援教育』を基盤とした生徒指導の在り方」

○研修のねらい この「かながわの生徒指導」では、平成 22 年に出された「生徒指導提要」を踏まえ、神奈川県としての生徒指導の在り方を示していく。本講義は1年間のガイダンスとしての位置付けとなる。

○課題

従来、生徒指導は問題行動を起こす生徒を対象とし、教育相談がその対極に位置づけられ、特定の生徒を対象とする印象が強いように受け止められています。平成 22 年に出された「生徒指導提要」では、生徒指導はすべての生徒を対象とし、学校教育の中で組織的・体系的な取り組みを行っていくことの必要性が述べられています。

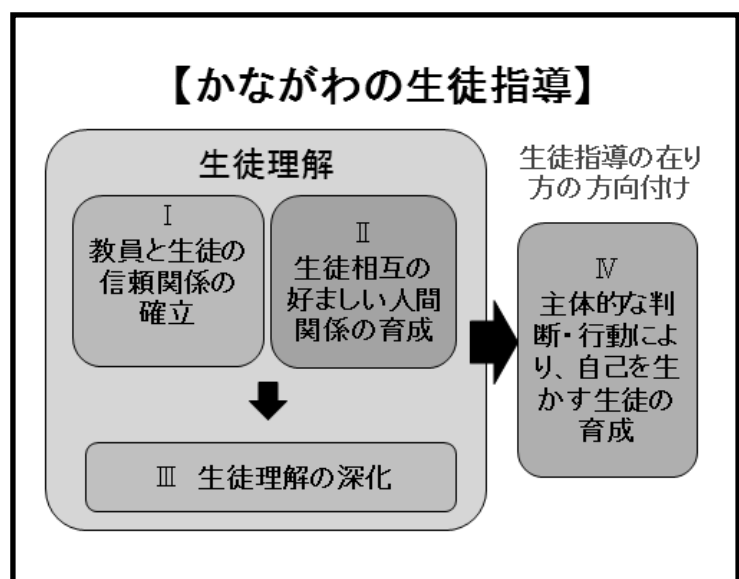
この考え方は、神奈川県が提唱する「支援教育」の視点に繋がるもので、この視点から生徒指導を捉えたとき、「これからの生徒指導」の在るべき姿が見えてくると考えられます。

○「かながわの生徒指導」の基本的な考え方

- すべての児童・生徒を対象とし、教育活動のあらゆる場面で取り組む、神奈川県が提唱する支援教育の考え方を理解すると共に、その支援教育が生徒指導の基盤になります。
- 本研修プログラムは、学習指導要領や生徒指導提要が示す生徒指導の在り方や意義を踏まえています。
- 目指す生徒指導は、問題行動や教育相談への対応で終わるのではなく、それらの予防的指導であったり、さらには、すべての生徒における将来の自己実現に向けた自己指導能力の育成を目指したりする学校教育活動であり、それは、授業やホームルーム活動などあらゆる場面で取り組む活動です。

○講義の概要

- 1 「かながわの支援教育」は、自らの力で解決できない課題を教育的ニーズと捉え、生徒一人ひとりの教育的ニーズに適切に対応していく教育のことで、障害の有無に関わらず、すべての子どもが対象であり、教育活動全般でその必要が生じる可能性があります。
- 2 生徒指導は、一人ひとりの児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動であり、「支援教育」と同様、すべての子どもを対象にした、あらゆる教育活動に関わる性質を持つものです。
- 3 このことから、神奈川県における、「生徒指導」は、神奈川県が提唱している「支援教育」を基盤として捉えることを特徴としています。
- 4 本研修では学習指導要領総則第5款5(3)を踏まえ、右図に示すようなⅠ～Ⅳの4本の柱立てを考え、この柱立てに従って、1年間の研修計画が立てられています。



<初任者は「授業」を心配している>

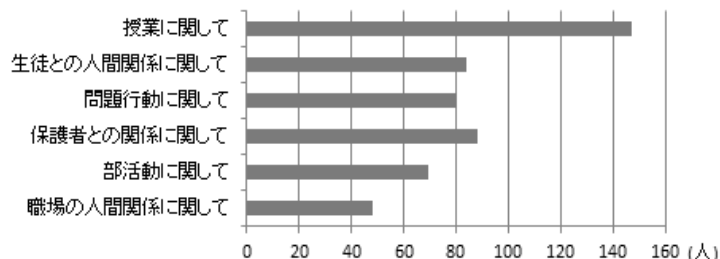
「授業」についての不安・心配

の内容をみると、・・・

- ・生徒にとって、分かりやすい授業づくりができるかどうか？
- ・どのようにしたら生徒が興味を持つかどうか？
- ・授業に参加してこない生徒への対応はどうしたら良いか？
などがあげられました。

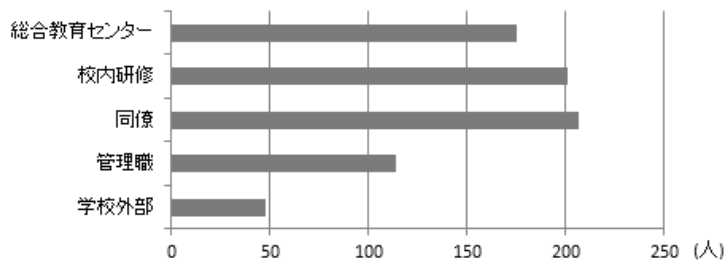
「Q 生徒指導上不安や心配に思うことを各該当について具体的に書いてください。」という質問に対して、記述があった人数は？

(アンケート回収数: 251人)



<初任者は「様々な学びの場」を期待している>

Q 生徒指導に関する知識や技術をどのようにして学んでいこうと考えていますか？
(アンケート回収数: 251人)



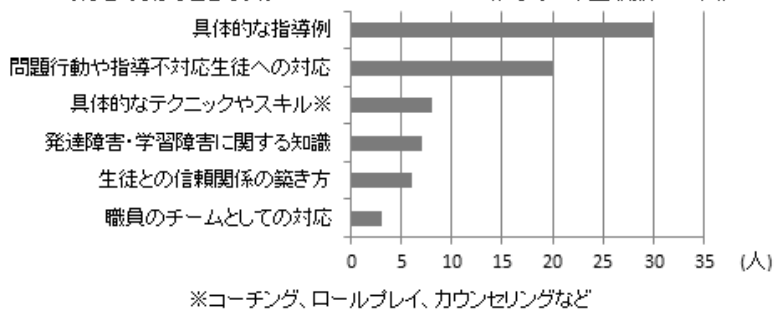
初任者が期待する生徒指導の学びの場として、勤務校の同僚や校内研修への期待は大きいのですが、初任者研修講座の中心会場である総合教育センターへの期待も大きいことが示されました。

総合教育センターでは、校

内研修の進め方についてもモデル校の協力を得て、効果的な研修の在り方を研究しています。その研究成果も、研修の中で報告していきたいと考えています。

<初任者は「具体的な指導例」を求めている>

Q 総合教育センターの生徒指導に係る研修講座で、今後あなたが学びたいと思うのはどのようなことですか？
(アンケート回収数: 251人)



※コーチング、ロールプレイ、カウンセリングなど

初任者が総合教育センターに期待している研修内容は、学校生活のあらゆる場面の「具体的な指導例」でした。

着任と同時に、担当クラスの授業を任されている初任者にとっては、当然の思いではないかと思えます。しかし、初任者研修講座を企画するにあたり、長年の

経験と勤に支えられてきた従来の生徒指導に、経験を普遍化する理論を加えた研修を伝えたいと考えています。

これから始まる初任者研修生徒指導プログラムは、生徒指導の理論とそれを理解するための豊富な事例によって、構成されています。

講義 「授業における生徒との信頼関係づくりの工夫」

○研修のねらい 高等学校における授業を中心とした、教育活動全般における生徒・教員間の信頼関係づくりについて理解を深める。

○講義の概要

- 1 授業における生徒指導の意味とねらい
- 2 生徒指導の機能と学習意欲の向上の関連性について
- 3 授業で実践できる手立てについて
- 4 実践事例の紹介と取組みの成果
- 5 授業を見直そう

高校生が毎日の授業で「やる気になる」とき

- 1 授業がおもしろいとき
- 2 授業がよくわかるとき
- 3 将来就きたい職業に関心を持ったとき

(国立教育研究所調査より)

問題行動等への対応に追われていると、日々の授業どころではなくなってしまう場合がありますか。

「分かる授業」「できる授業」からは遠ざかり、それが新たな問題行動へと結び付く……。十分な教材研究もできないままに場当たりの授業の連続になりかねません。

例えば、こんな場面はありませんか？ 授業を抜け出し、廊下や空き教室に集まり話をする生徒たち。具合が悪いと言

い訳をし、保健室に入り浸る生徒たち。そんな生徒たちに、「教室に戻りなさい」「今は、大事な授業の時間だよ」と声をかける。しかし返ってきたのは、「だって、授業がつまらないし……」「どうせ分からないから……」という声。肝心かなめの「授業の充実」という視点が抜けてしまっている生徒指導は、やはり消極的なものといえるでしょう。

生徒指導の本来の目的を確認しながら、各教員の教科に対する専門性を十分に生かした「授業づくり」の大切さについて考えてみてください。

日常の授業においてこそ！

授業は学校生活の基本です

問題行動の対応に追われていると……

生徒指導の機能を生かすことは学習意欲を支えます

生徒指導の推進



目指すもの

自己指導能力の育成



とは

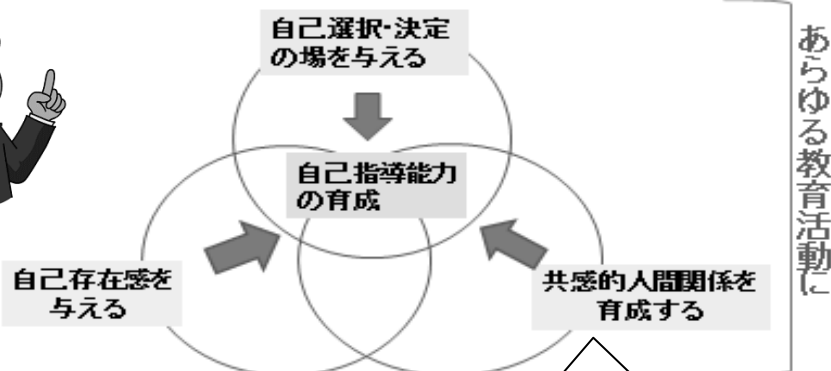
その時その場でどのような行動が適切であるか、自分で考えて決めて実行する能力



生徒指導の「3つの機能」を授業の中で実践するには・・・

自己選択・決定の場を与えるために・・・

- 1 生徒が興味・関心を持ち、主体的に学ぼうとするように資料や教材提示の方法を工夫しよう。
- 2 調べたり、考えたりする時間を十分に与えよう。
- 3 授業中で生徒自身が、自分の考えを発表できる機会を設けよう。
- 4 正解ひとつを答えさせて終わりではなく、対比する意見が出やすいような発問をしよう。



自己存在感を与えるために・・・

- 1 間違っただけでも大切に受け取り、取り上げよう。
- 2 生徒の名前をなるべく早く覚え、名前を呼ぶようにするとともに、目をしっかり見て話そう。
- 3 つぶやきも積極的に取り上げ、発表のチャンスを与えるようにしよう。
- 4 一方的な講義中心の授業でなく、生徒が参加しているという気持ちをもてるように、話し合いや作業などのグループ活動を取り入れよう。
- 5 授業の中で承認、賞賛、励ましをしよう。
- 6 生徒の状況をよく把握し、授業のどの場面でもどの生徒を生かすかを工夫しよう。

共感的人間関係を育成するために・・・

- 1 授業規律についてはきちんと説明し、好ましい姿はほめ、好ましくない姿は正すように、教員の姿勢を明確にしよう。
- 2 たどたどしい発言でも言い終わるまで待ち、的外れの考えや意見も熱心に聴こう。
- 3 他の生徒の発言は、黙ってきちんと聴かせるとともに、間違いなどを笑わないように指導しよう。
- 4 相互評価を取り入れ、お互いの良さを認め合うような指導を取り入れよう。
- 5 共に発言をつなげ、集団の学び合いにしよう。
- 6 自己開示し、生徒から学ぶ姿勢をもとう。

○講義を受けたことで変わったこと

(受講者振り返りアンケートより)

- これまでの経験から、「生徒指導」とは生徒を呼び出して指導したり、体育館に集めて指導したりすることだと思っていた。
- 授業において、生徒一人ひとりに声をかけて自己存在感を与えられるようにしたい。
- 授業で生徒にやる気を起こさせるために細やかな配慮をすることも、生徒指導であることを知った。
- 一人ひとりを大切にする「優しい生徒指導」も重要だが、学校の規律を守らせる「厳しい生徒指導」も必要だと思った。
- 嫌なことや苦しいことに立ち向かっていく姿勢を育てることも、社会に出ていく場面で必要だと思う。
- 不登校経験者に対し、小・中学校の「学び直し」をしつつ、高等学校の学びを習得させるためには、一層の授業の工夫が必要だと思った。



校内研修テーマ：「授業における生徒との信頼関係づくり」

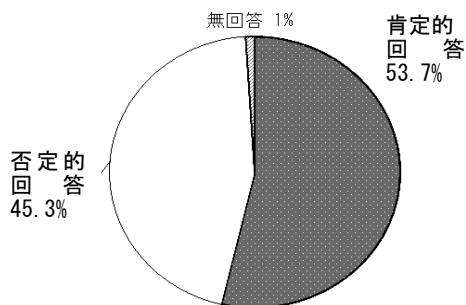
○課題 「授業における信頼関係づくり」、していますか？

下の図や表から、あなたは何を読み取りますか。



○本県の高校生の状況

「学校の勉強を理解していますか」



校種	順位	原因・きっかけ
小学校	1位	いじめを除く友人関係をめぐる問題
	2位	学業不振
	3位	教職員との関係をめぐる問題
中学校	1位	いじめを除く友人関係をめぐる問題
	2位	学業不振
	3位	いじめ
高等学校	1位	学業不振
	2位	いじめを除く友人関係をめぐる問題
	3位	入学、転編入学、進級時の不適応

平成 23 年学習状況調査アンケートより

平成 22 年度神奈川県児童・生徒の問題行動等調査結果より

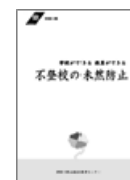
下のシートは、「実践した授業が、生徒の願いや思いに応えられていたかどうか」を見直せるように作成されたものです。授業の振り返りの手立ての一つとして、チェックしてみてください。

シート1 授業見直しチェック表

<◎：十分達成できた ○：おおむね達成できた △：努力が必要>

視 点	チェック内容	◎・○・△
教師の姿	1 身に付けさせたい力を明確に設定した。	<p>「授業の中の生徒指導」について、自分の振り返りだけでなく、研修会で協議してみよう！</p>
	2 学習課題は、児童・生徒の興味・関心を踏まえた。	
	3 教科の内容を深く理解して授業に臨んだ。	
	4 発問や指示の内容をわかりやすく生徒に伝えた。	
	5 考える時間を保障した。	
	6 書く時間を保障した。	
	7 ペアワークやグループ活動を取り入れた。	
	8 教師よりも生徒が話す時間を多くするようにした。	

上記「シート1 授業見直しチェック表」は、「学校ができる 教員ができる 不登校の未然防止ガイドブック」（神奈川県立総合教育センター 平成 24 年 4 月）から引用しました。どうぞ、活用してください。



○身に付けて欲しい力や考え方

- 生徒指導とは、問題行動が起きた時の対応だけでなく、学校生活全般で行われるものです。
- 学校生活で、一番長く過ごす授業でこそ、適切な生徒指導が必要です。
- 生徒にとって「分かる授業」について考えることが必要です。
- 教員の適切な指導によって、生徒が授業に前向きに取り組むことができ、教員と生徒の信頼関係を築くことが大切です。

教員の思いや授業で気を付けていることを付箋に書いて模造紙に貼り、皆で共有します。



付箋に意見を書く効果

- ・参加者全員が意見を書くので、協議に対し受け身にならず、「みんなで協議に取り組もう」という一体感が生まれます。
- ・全ての意見が尊重、共有されるので、多面的な捉えや気づきなども出しやすくなります。

その1

テーマ：「授業中、教員が心掛けていること」



例) ある学校の場合

- プラスの言葉で指導する。
- やさしく接し、わかりやすく教える。
- 失敗をとがめない。
- 授業に参加するといいいことがあると感じさせる。
- 個に合わせた対応をする。

ある学校では、生徒が授業に出席しやすい雰囲気をつくったり、生徒が安心して意欲的に学習に取り組むことができるようにしたりするために、さまざまな工夫を日常的に行うようにしました。
こうした取組みを通して、生徒一人ひとりの個別対応を大切にすることで、「学校に来れば自分に合った学習が受けられる」という思いを生徒に抱かせることができ、履修促進の成果も上げることができました。

その2

テーマ：授業中での、生徒一人ひとりへの気配りの効果

取組みの成果

- 授業が「自分のためになること」を生徒が実感し、授業に対して前向きになった。
- 人前で話したり、将来のことを考えたりすることができるようになった。
- 学校出席率が増加し(3年間で約2倍)、退学者数が毎年減少した(3年間で約4分の1)。

ある学校の取組みは、「単位制による定時制普通科」の特色を生かしたのですが、「内容を精選した指導」、「生徒の学習状況に合わせた授業」、「じっくりゆっくりに進むカリキュラム」など、授業づくりの参考となる点がたくさんあります。

教員それぞれの思いや工夫を共有することは、学校が抱えている課題を解決するための大きな力となります。学校の目標や生徒の実態に合わせたテーマを設定するとよいでしょう。

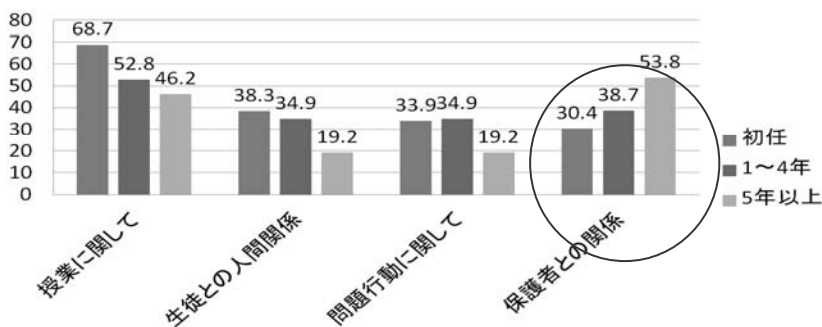


講義 「保護者との連携と対応」

○研修のねらい 保護者を、生徒をめぐる課題解決のパートナーとして捉え、教員と保護者が相互に理解し、協力関係をつくるために必要な事柄について考える。

○H23 年度初任者研修受講者アンケートより

あなたが勤務する上で、
生徒指導上不安や心配に思うことについて



同じ初任者でも、教員経験の長い者ほど「保護者との関係」への不安や心配は高いことがわかります。

○講義の概要

1 保護者との連携の意義

…生徒の「環境」への理解、保護者との信頼関係と協力関係の構築

1 保護者との連携の意義

- ①教員が生徒の環境についての理解を深める
- ②教員と保護者の相互理解を進める
- ③生徒の問題行動への協力関係をつくる

生徒指導についてはここが特に重要

2 ニーズ、場所、手段を押さえる

…教員と保護者、主体はどちらか。
面談か、電話か、手紙か等

2 ニーズ、場所、手段を押さえる

- 連携ニーズは教員側？保護者側？
- 保護者を学校に呼ぶか、教員による家庭訪問か。
- 面談による対話か、電話による対話か、手紙など文書による連絡か。



生徒指導の場合、
連携ニーズは教員にあり、
手段は「対話」による場合が多い

4 保護者との対話のポイント

……保護者をまず安心させ、面談や連絡の目的を常に意識する

- ①傾聴する姿勢
- ②保護者への信頼とパートナーシップ
- ③自己開示と説明責任
(アカウンタビリティ)
- ④対話を通じて変化すべきは教師
- ⑤保護者が自己と向き合うことへの援助
- ⑥課題の再確認と解決へのアクション

保護者との対話のポイント

◎一番大事なこと:

保護者をまず安心させ、面談や連絡の目的を常に意識すること。

- 伝えるべき内容は事前に整理されているか?
- 自分の服装は?
- 面談場所の環境は?
- ふるまうべき態度は?



④対話を通じて変化すべきは教員

- 生徒も様々な“顔”を持っている。
- 「保護者は子どもをわかっていない」ではなく「教員は生徒をわかっていない」と考える方が自然である。

豊かな生徒像で、指導の在り方は変化する。

⑤保護者が自己と向き合うことへの援助

- 保護者の不安や苦しみに寄り添う。
- 家族全体、地域の援助資源などを話し合うことで、新たな教育力を引き出すことも重要な援助。
- 学校での事は我々教員に任せてください」と言いきれることの重要性。

「生徒のどこをどう成長させたいか」家庭で行うべきことと、学校で行うべきことを、保護者と教員で整理し、確認する。

- 5 それでも「限界」を感じたなら
……とにかく一人で抱え込まないで！
チームで対応しよう！

5 それでも「限界」を感じたなら……

- 同僚、先輩教員、管理職に相談しよう。
- スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど、学校内外の資源を生かそう。
- ケース会議や支援チームの立ち上げなど、組織の問題として扱ってもらおう。

とにかく1人で抱え込まない！
チームで対応しよう！



○講義を受けたことで変わったこと

(受講者振り返りアンケートより)

- 指導する際に「生徒の何を成長させたいか」を伝えることが大事だと気付いた。
- 生徒への対応は、すべて保護者へ伝わっているという気持ちで指導していきたいと思う。
- 教師が変わるためには、保護者から話を聴くという姿勢に共感したので、ぜひ取り組みたい。
- 保護者と関わる際、教員と保護者の双方から情報提供しやすい関係づくりを心掛けたい。
- 保護者の対応は、漠然と「とても大変なもの」と思っていたが、信頼関係を築くことができれば強い協力を得られると思った。
- 指導は「反省させるためのペナルティ」のようなものではないかと、ずっと感じており、その考えに疑問を感じていたが、今回の生徒指導は支援教育につながることを実感できた。
- 保護者と接する機会があれば、まず話をよく聴くことから実践したい。

校内研修テーマ：「保護者との効果的な面談の在り方」

○身に付けて欲しい力や考え方

- 保護者と連携する際に教員が心がけることは、生徒について教えをいただくという丁寧な態度です。
- 必要な姿勢とは、保護者に敬意をもち、教員は自分の知る事実や自分の考えを提示しながら、保護者との対話を通じて教員自身の考え方や思い込みを変えようとすることです。
- 教員の思いと姿勢が保護者に伝わることで、保護者は自分が取り組むべき課題に安心して向き合うことができます。ここで初めて、生徒の支援ニーズを中心に据えた対話が教員と保護者の間で成立し、双方が主体的に課題解決へ向かう準備が整います。
- 保護者との対話において、教員側のニーズや思いを伝えることが中心になりやすいですが、保護者の思いを引き出し、教員と保護者の相互に豊かな生徒像を形成することが必要です。

【ねらい】

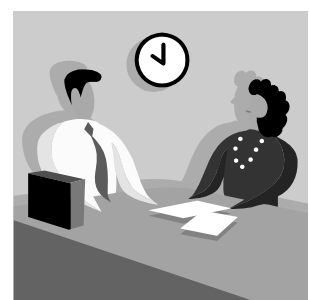
ロールプレイを通じて、保護者の立場から教員の伝えたいことがわかるか、親としてどのような気持ちになるのかを体感することで、適切で効果的な保護者との関わり方を学ぶ。

- 1 問題行動を起こした生徒の架空事例をつくり、生徒の困りと担任として考えられる支援、保護者との連携の仕方や配慮、最初に連絡を取るときに伝えたいことについて考え、用意したワークシートに記入する。
- 2 ワークシートに記入したことをもとに、グループで協議する。
 - ①生徒Aの困っていること、担任としての支援の在り方
 - ②保護者との連携の仕方と配慮すること
- 3 保護者と初めて面談するというシチュエーションで、教員役・保護者役・観察者になり、役割を演じる。
 - 担任として伝えたいことが伝えられたか。
 - 保護者としてどう感じたか。
 - 観察者はどう感じたか。※可能なら、役割を変えて2回目を行ってください。
- 4 全体で感想を交流する。
 - 協議を通して考えたことや、保護者と連携するときに大事なことなど。

※架空事例は、学校の実情に応じた、実際に合った事例等を参考に作成してください。

※1と2の手順は、面談前の“作戦会議”にあたるものです。

※ロールプレイにあたって、職員を2つのグループに分け、異なる事例を扱い、教師役、保護者役を相互に割り当ててもよいでしょう。



参考：保護者と面談する時は・・・

○保護者との関係

- 学校の方針を適切に保護者に伝え、理解を求めよう。
- 学校と保護者との信頼関係をつくろう。

○面談時に気を付けたいこと

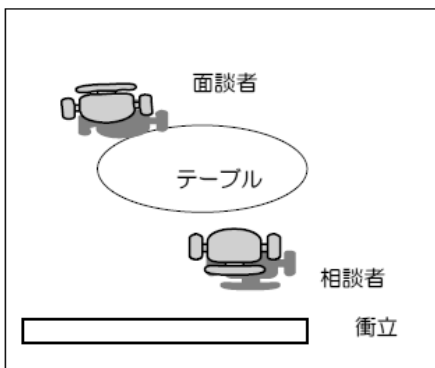
- 「お忙しい中お越しいただき、ありがとうございます。」等、ねぎらいの言葉をかける。
- 相手の緊張をほぐし、リラックスして話せるように心がける。
- 生徒の家庭での様子や保護者の考え等を聴き、どのようなことでもそのまま素直に受け止める。
- 相手が何を言いたいのか、その意図を解するように聴く。
- わかることは「わかります」、わからないことは「もう少し聴かせてください」ときちん伝え、正直な対話を心がける。
- 生徒の問題を明確にして、問題をプラスに解決していくために、どのような協働ができるかを検討するように心がける。
- 原因や起きてしまったことに執着せず、現在、もしくはこれから先、具体的にできることを考える。
- 今後とも互いに生徒を支援する立場に立ち、協力していくことを確認して終わる。

《注意》

- 学校で行う面談は、何か目的がある。目的に沿った対応を心がけ、画一的にならないよう努めよう。何のために行う面談なのかを明確にすることが大切です。
- 結論を急がず→「聴く」ことをこころがけよう。
- 相手の話が理解できなかつたり、自分の考えと異なつたりする場合も、説教したり、説得したりせず→「聴く」ことをこころがけよう。

*面談する場所は、プライバシー、リラックスした雰囲気、相談者との距離等に配慮しましょう。

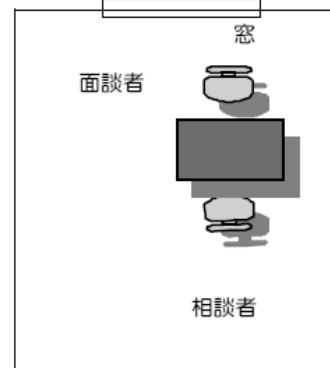
(1対1の場合の例)



(1対2の場合の例)



(教室の場合の例)



*プライバシー保護に留意する。

(H21 生徒指導研究集録〈神奈川県教育委員会〉より)

講義・演習 「ホームルーム経営の基礎」

○研修のねらい

高等学校におけるホームルーム経営の基礎を理解し、より良いホームルーム経営についての考えを深める。

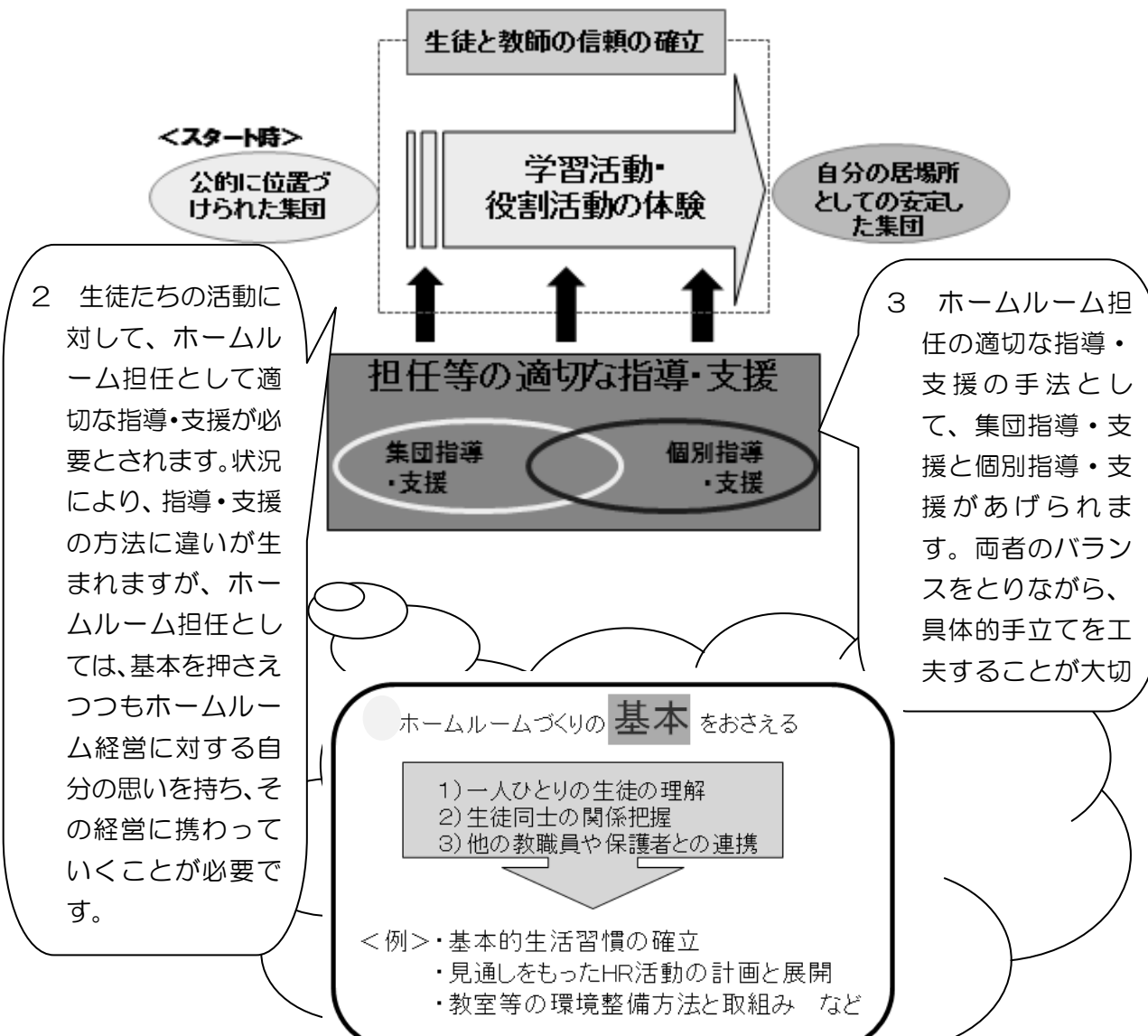
○講義・演習の概要

講義

講義では、良好なホームルーム経営の実践報告のあと、下図の「ホームルームづくりのイメージ」を示しながら、いくつかのポイントについて事例を出して講義を展開しました。

1 ホームルームは、生徒たちの学習活動や役割活動や行事への取組み等を重ねる中で、単なる生徒集団から自分の居場所としての意識が持てる安定した集団へと育ちます。

ホームルームづくりのイメージ



2 生徒たちの活動に対して、ホームルーム担任として適切な指導・支援が必要とされます。状況により、指導・支援の方法に違いが生まれますが、ホームルーム担任としては、基本を押さえつつもホームルーム経営に対する自分の思いを持ち、その経営に携わっていくことが必要です。

3 ホームルーム担任の適切な指導・支援の手法として、集団指導・支援と個別指導・支援があげられます。両者のバランスをとりながら、具体的手立てを工夫することが大切

ホームルームづくりの**基本**をおさえる

- 1) 一人ひとりの生徒の理解
- 2) 生徒同士の関係把握
- 3) 他の教職員や保護者との連携

<例>・基本的な生活習慣の確立
・見通しをもったHR活動の計画と展開
・教室等の環境整備方法と取組み など

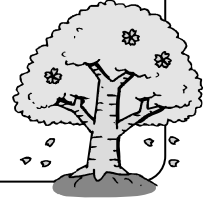
演習

課題：「高等学校版〈ホームルーム開きチェックリスト〉を作ろう」

新年度、ホームルーム担任として、ホームルームの生徒との最初の出会いを迎えるにあたり、あるいはホームルーム経営のスタートにあたり、様々な準備や取り組み等が必要です。その項目を一つずつあげて、チェックリストにまとめてください。

その際、チェック項目の観点として、次の5点を踏まえてください。

- A：生徒理解 B：基本的な生活習慣の確立
C：雰囲気づくり D：環境整備
E：担任の思い



※ ホームルーム担任の経験がない初任者は、具体的な項目をあげにくい可能性があるため、「ブレンライティング」という手法を用い、グループで観点別の用紙を回していきながら、気付いたことを書き足していく方法で意見を集めた。その集まった多くの意見の中から、各自が自分の「ホームルーム開きチェックリスト」を作成した。

() 分科会 () グループ

観点〈A：生徒理解〉 その1

() 分科会 () グループ

高等学校版〈ホームルーム開きチェックリスト〉 その1

観点	チェック項目

○講義を受けたことで変わったこと

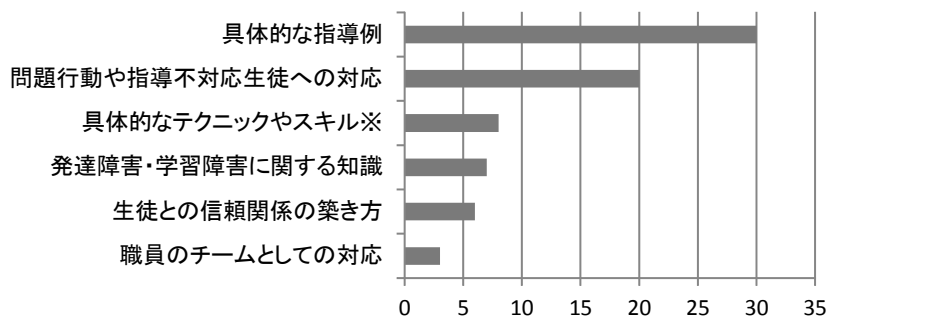
(受講者振り返りアンケートより)

- ・ホームルームは作っていく(創っていく)ものであるという視点。
- ・個別指導と集団指導の関連性とその波及する効果を学んだ。個別指導が生徒の主体性を生み、集団指導につながることもあることを知ることができた。
- ・ホームルームづくりのイメージ図について理解した。個別指導が全体(集団)指導へつながることもあることを知った。
- ・「学校組織の中のホームルーム」であると感じた。そのような意識が今までなかった。
- ・「高校は生徒との関係はドライなのは当たり前」と、学校の雰囲気から感じていたし、そうするものと考えていたが、もっと生徒と関わって盛り上げていいのだと分かった。
- ・指導、支援とは頭髪指導などだけでなく、行事などのプラスの指導もあること。
- ・見通しをもった計画的なホームルーム活動が、より良いホームルーム経営につながることを感じた。
- ・「半年、1年経った時に、ホームルームを安心できる場所にする」ということを学んだ。
- ・「ロングホームルームは担任の負担だ」という言葉を聞いたことがあったが、私は絶対にそんな風になりたくないと思う。現在、副担任として関わっているクラスの担任は、どのような信念でクラス経営をしているのかを聞いてみたいと思う。

校内研修テーマ：「ホームルーム経営の工夫」

○課題

4月の初任者研修のアンケートの中で、「総合教育センターの生徒指導に係る研修講座で、今後あなたが学びたいと思うのはどのようなことですか？」という質問に対し、自由記述の回答を、主だった項目にまとめたものが下のグラフです。



※コーチング、ロールプレイ、カウンセリングなど

(アンケート回収数：251人)

この回答では、生徒指導に関して初任者が特に気になっているのは、具体的な指導例、特に、問題行動等への対応であることであり、ホームルームに関する記述はほとんど見当たりませんでした。このことから、4月の初任者にとって、「ホームルーム経営」そのものに関する意識は非常に希薄であることが分かります。初年度からホームルーム担任を担当している初任者はいないことを考えると、それも仕方のないことです。

しかし、1月の初任者研修での最終アンケートでは、ホームルーム経営に関する具体的なノウハウを切望しているといった状況が見取れました。新年度の担任業務がまさに、自分自身の課題となったことが推察されます。

勤務校では、日ごろ、身近にたくさんのホームルーム担任が特徴ある経営をしているはずなので、少し意識を持って、そのホームルーム担任を観察するだけでも多くの学びの機会を持てるはずで

各学校では、4月から1月までの適切な時期に無理のないペースで、各学校の状況にあったホームルーム経営の在り方を考える機会を用意されることが望まれます。

○身に付けて欲しい力や考え方

- 生徒一人ひとりにとって居心地のよいホームルームというものは、自然発生的に生まれるのではなく、ホームルーム担任による「ホームルームを経営する」という主体的姿勢が必要です。
- 各学校でのホームルーム担任の経営の状況を観察したり、あるいは共に行動する機会を持ったりして、ホームルーム経営の意義や具体的なテクニックをつかむきっかけとしてください。
- 新ホームルーム担任として、初めてのホームルーム開きに向けて心構えや必要な準備について考えましょう。

その1

「広い視野に立ったLHR指導計画づくり」

【ねらい】 学校の教育目標や学校行事、学年の取組みなどを考慮しながら、ホームルーム担任の考えを反映させたLHRの具体的な指導計画を立案する。

- 1 LHR年間指導計画のうち、全校のクラス・同一学年のクラスで統一の取組みを実施する日程を確認する。(事前に担当グループなどの準備や調整が必要です。)
- 2 LHR年間指導計画のうち、上記「1」で示された日程を除いた、各クラスに運営を任されるLHRの日程を確認し、その時間の指導計画を考える。
- 3 上記「2」に関する各クラスの指導計画について発表する。発表にあたり、指導計画の目的、時期、手法等を明確にする。

その2

「コミュニケーションツールとしての『ホームルーム日誌』づくり」



【ねらい】 形骸化してしまいがちなホームルーム日誌が、ホームルーム経営の有効なツールとなるようにその様式を工夫する。

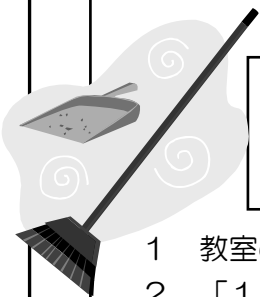
- 1 「ホームルーム日誌」をホームルーム経営に有効活用しているホームルーム担任から、その運営や活用状況についての具体的な話を聞く。
- 2 「1」の内容を踏まえて、次の点についてグループ討議を行う。
 - ①ホームルーム担任が「ホームルーム日誌」から得たい情報
 - ②生徒が①について記述しやすい様式の工夫
 - ③クラスの中での効果的な運用方法
- 3 「2」に従って、「ホームルーム日誌」の様式をグループごとに作成する。

「生徒理解につながる清掃時間の活用」

その3

【ねらい】 教室の清掃方法をクラス全員に定着させ、全員で協力してよい学習環境を整えるとともに、清掃活動も、教師と生徒間の信頼関係構築の機会となることを確認する。

- 1 教室の学習環境が、常に整っているクラスの清掃状況を参観する。
- 2 「1」の状況を踏まえて、次の点についてグループ討議を行う。
 - ①教室の清掃方法の手順
 - ②黒板の手入れ方法
 - ③ごみ箱の活用方法
 - ④清掃用具の種類と数
 - ⑤清掃当番のローテーションの仕方等
- 3 「2」の討議内容を踏まえて、自分が担当するクラスの清掃の取組みに関して立案する。
- 4 清掃活動を実践するにあたり、生徒理解に関する配慮事項等について討議する。



講義・演習 「生徒同士の間関係づくり」

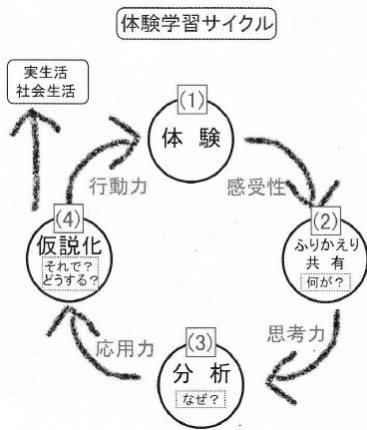
○研修のねらい 生徒同士の良好な人間関係づくりに果たす教師の役割や技術について理解を深める。

○講義・演習の概要 (所要時間：105分) 講師：県立青少年センター指導者育成課職員

「アイスブレイキング」と「演習」についての説明

「アイスブレイキング」は、氷（アイス）を壊すという意味をもつ単語ですが、堅苦しかったり、よそよそしかったりする場の雰囲気や和らげ、活動に参加するモチベーションを高めるという目的がある活動です。これには、様々な手法があります。

「演習」で取り組む「体験学習」は、問題の解決に向けた体験を通して学ぶ仕組みを理論化して構成され



ています。上図のように、私達は、日常生活の中の表面に現れたコンテンツのみを見てしまいがちですが、体験学習では、表面に現れなかったプロセスを観て考える力を養うことで、生きる力を育てようとする目的があります。

また、「体験学習」では、「体験」のみの取組みで終わるのではなく、左図のような「体験学習サイクル」によって学びを深めることができます。



演習 (受講者による実習～振り返り)

実習 テーマ：「民宿の部屋」

課題：20人が宿泊する民宿では、部屋割りが決まっているにも関わらず、今、自由に入出入りしています。部屋割りに関する16のヒントをもとに、20人の部屋名を明らかにしてください。

○1グループの人数：約6名

○各グループに用意するもの：16枚のヒントカード、課題用紙(現状の部屋の状況を明示) 解答用紙、ふりかえり用紙

○時間の配分：導入(10分)、実習(30分)、
各グループの結果発表(5分)、
ふりかえり(25分)、まとめ(10分)

※このゲームは、「コミュニケーションゲーム」です。
(冊子「楽しく進めるグループワーク ～個と集団の気づきをうながす～」(平成24年3月 神奈川県青少年指導者養成協議会)のP.55～を参照)

学校教育活動への活用について

・学校行事、LHR等の特別活動だけではなく、教科指導などでの活用を考えます。

まつの間(3人) 愛子・夏代 ・隆	廊下	あやめの間(4人) 美奈代・寛子 ・実可・春香
うめの間(4人) 和義・泰子		ぼたんの間(4人) 絵理子・剛 ・一平
さくらの間(2人) 草平・雅美 ・有広・安奈		はぎの間(3人) 文也・良雄 ・高信・明

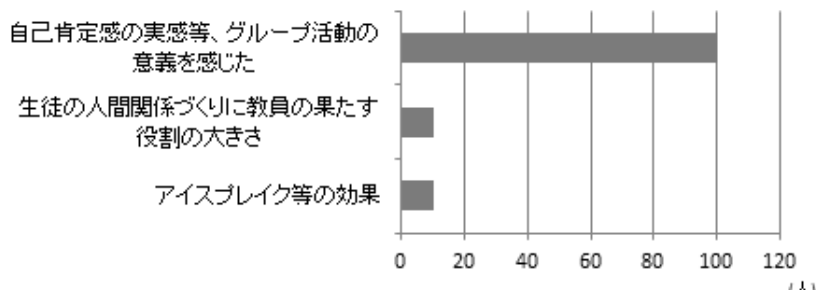
○は女性を示す

○講義を受けたことで変わったこと (受講者振り返りアンケートより)

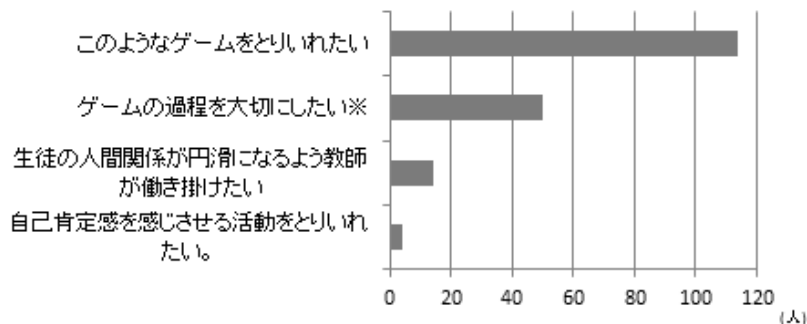
※自由記述での回答結果を、主だった項目にまとめ、下のグラフに表しました。

(アンケート回収数 237 人)

Q この講座を受けてイメージや考え方が変わったことは？



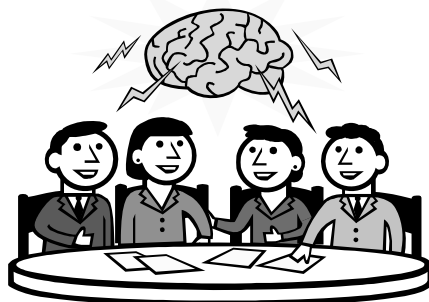
Q この講座を受けて明日からの実践に生かしたいことは？



※ゲームの過程として、話す、聞く、役割分担、振り返りなど

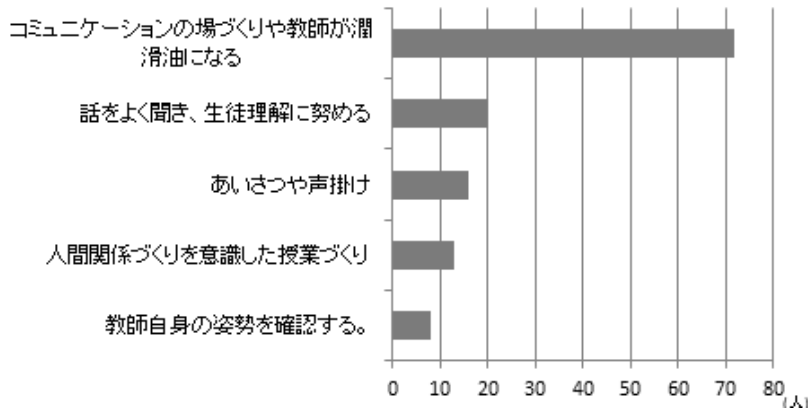
○講義・演習を受けたことで変わったこと (受講者振り返りアンケートより)

- ・グループ活動は協調性や一体感が生じる。
- ・生徒が勝手に人間関係を作るだけでなく、教師が人間関係づくりの場の設定をし、きっかけをつくることもできるということ。
- ・人間関係は信頼関係を作ることから生まれる。その信頼関係をつくる一歩はコミュニケーションだと思った。
- ・グループで協力すると、一人では出ないアイデアが出るということ。
- ・「コミュニケーション能力」と聞くと、ただ会話をするだけというイメージだったが、グループで協力して課題解決を目指すという具体的な活動をイメージすることができた。
- ・これから文化祭があるが、生徒が積極的にならずクラスの出し物が決まらないので、グループワークを取り入れてみようと思った。
- ・今日、自分が気付いたことを生徒にも気付かせたい。同じようなグループワークを総合的な学習の時間などで取り入れたいと思う。
- ・「熱中できること、協力できること、学び合うこと」を生徒に体験させていきたい。
- ・自分で考えることが大切なので、授業中に生徒に考えさせる時間を多く持たせたい。
- ・この講座でやった内容を言語活動として取り入れていきたい。



○課題

Q 「生徒相互の好ましい人間関係の育成」に向けて、どんな取組みが考えられるか？



(アンケート回収数 237 人)

- 前ページの研修終了後のアンケート結果をまとめた上記グラフでは、「コミュニケーションの場づくりや教師が潤滑油になる」という意見が多数であることが分かります。このことから、生徒の人間関係づくりに向けて、教員による何らかの積極的な関与が可能であることが実感できました。その方法として、日常の声掛けやあいさつはもちろんですが、今回のようなグループワークなどの方法を更にマスターし、その時の目的にあった活用ができるかどうか課題といえるでしょう。
- 採用2年目の教員は初めてのホームルーム担任を持つことが多く、それに関する業務が増え悩みや迷いも多くなります。特に、生徒同士の人間関係は、ホームルーム経営に大きく影響するものです。初任のうちから、人間関係づくりについての研修を実施してみましょう。
- 特にホームルーム担任として、4月の新クラスがスタートした時期における仲間づくりや、長期休業後のホームルーム経営においてグループワーク等の活用を考えてみましょう。

○身に付けて欲しい力や考え方

- 様々なグループワークの方法を身に付けることを通して、各グループワークが生徒同士の人間関係づくりにどのような効果があるのか、また、どのような場面で活用すると良いのか、等について教員同士で、意見交換できると良いでしょう。さらには、生徒同士の人間関係づくりに果たす教師の役割やその活動を適切に進行する技術について考えてみましょう。
- 先に紹介した冊子に掲載のグループワークの方法に対して、各学校や各クラスの状況を反映させたオリジナルの工夫を考えるなど、各学校の教育活動での活用を考えてみましょう。

常備しておきたいグループワークグッズ (例)



鐘、



タイマー、



はさみ、

油性カラーペン、
付箋、模造紙 など

○校内研修への提案

グループワークの実践と

ホームルーム経営への活用を考えてみよう

【ねらい】 生徒同士の人間関係づくりを目的としたいくつかのグループワーク用アクティビティの効果的な活用方法を考える

- ①先に紹介した『楽しく進めるグループワーク ～個と集団の気づきをうながす～』（神奈川県青少年指導者養成協議会）に掲載されているアクティビティのいくつかを実践してみましょう。
- ②1年間のホームルーム経営の中で、どのアクティビティをどの時期に行うことが効果的かを考えてみましょう。また、教科指導、生徒会活動、部活動等への活用についても考えてみましょう。

※「体験学習」としてのグループワークは、机上で行う「コミュニケーションゲーム」と「コンセンサスゲーム」、体を動かして行う「イニシアティブゲーム」の3つに分類されます。

「コミュニケーションゲーム」とは、・・・情報や意志の伝達を通して、コミュニケーションの難しさや大切さを学ぶグループワーク。

「コンセンサスゲーム」とは、・・・コンセンサス（全員の合意）に至る過程で起こるさまざまなことから（メンバーの参加の仕方、コミュニケーションやリーダーシップ、グループの雰囲気、他者の価値観の理解）、グループ全員が合意することの難しさ、大切さなどを体験的に学ぶグループワーク。

「イニシアティブゲーム」とは・・・小グループ（5～10人）が、1人では解決できない精神的・身体的課題に対して、一人一人が持っている諸能力を出し合い「知恵」と「勇気」と「協力」のもとにその課題を解決するグループワーク。



「県立青少年センター指導者育成課」からの情報提供

○県立青少年センターが実施している研修やイベント、冊子についての情報が掲載されています。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f100221/>

○平成23年度「楽しく進めるグループワーク ～個と集団の気づきをうながす～」
今回使用したコンセンサスゲームの他さまざまなアクティビティが掲載されています。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f100221/p449701.html>

○平成22年度「どこでもアウトドア 初心者におすすめ！自然体験活動の手引き」
デイキャンプ等での野外炊事やさまざまな自然体験活動が掲載されています。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f100221/p304597.html>

講義 「生徒指導グループとの連携 個と全体の生徒指導」

○研修のねらい 教員一人ひとりが行う日常的な「個の生徒指導」と生徒指導グループを中心とした「全体の生徒指導」とのつながりを理解し、効果的な生徒指導の在り方を理解する。

○講義の概要

本講義は、生徒指導グループリーダーの経験がある県立高等学校の総括教諭に担当していただきました。

まず、神奈川県教育委員会「生徒指導ハンドブック」により、生徒指導の定義が確認されました。

「個の生徒指導」と「全体の生徒指導」をつなぐものが、各学校で設定している「生徒指導基準（内規）」です。これを理解して生徒指導にあたるということは、問題行動等の未然防止の観点からも非常に大切であることが説明されました。これは、初任者であっても例外ではありません。

授業やホームルーム、部活動等の日常生活において実践されるのが「個の生徒指導」でしょう。「個の生徒指導」においては、生徒理解が基本となります。一人ひとりの生徒が困っていることは何なのか、そして何を求めているかを、あなたは気付くことができているでしょうか。

次ページに掲載したく生徒理解を踏まえた「気付き度」診断＞を確認してください。日常の生徒指導の実践では、ここに挙げた点が要点といえるでしょう。特に、毅然とした姿勢を示さなくてはならないような場面こそ、深化した生徒理解の在りようが問われると言えるでしょう。

1 生徒指導とは

(1) 神奈川の生徒指導ハンドブック

- ① 自己指導能力の育成
- ② 集団生活を円滑にこなせる資質や能力
- ③ 自己の責任と判断で行動できる
- ④ 毅然とした指導と個に応じた指導
- ⑤ 生徒理解 生徒の課題
- ⑥ 教員間の共通理解
- ⑦ 問題行動への指導の基準や手続き

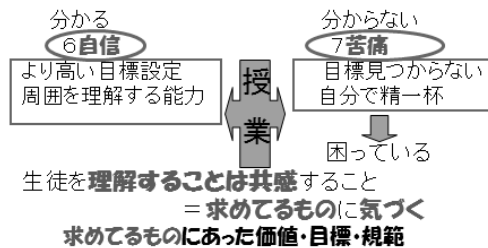
2-(2) 「個の生徒指導」と生徒指導グループがうまく連携するために

(7) 生徒指導基準が理解できている
個の指導と全体の指導が一致
= ぶれない指導

↓

頼りになる先生
初動がしっかり出来る
指導の発端に気付け、問題行動予防になる
→ 「特別指導の位置付け」を知っておく

3 個の生徒指導のための生徒理解



3-(3) 個の生徒指導の実践

- ◆ 小さな変化を気付いて傾聴する
支援と安心
- ◆ 毅然とした姿勢（叱る）
規律と信頼
- ◆ 絆と居場所作り
学校は家族と同様大切な居場所

＜生徒理解を踏まえた 「気付き度」 診断＞

- 生徒の名前と顔が一致する。
- 生徒一人ひとりについて授業への取組み状況、テストの点数や理解度、ノートの提出状況等を思い浮かべることができる。
- 「うちの生徒は・・・」（否定的な内容）と言わないように心掛けている。
- 2日連続して欠席した生徒には、「どうしたの?」と声をかけている。
- 授業中、寝ている生徒には声をかけている。
- 授業中の私語や携帯いじりには気付き、何らかの指導をしている。
- 自分が話す時は、生徒が話すのをやめてから始めるようにしている。
- 生徒一人ひとりの癖や性格を捉えるのが得意である。
- 「静かにしろ」は言わないようにしている。
- 生徒の目の表情やノートの字体など微妙な変化を気にするようにしている。
- 勤務校の生徒指導基準（内規）を理解している。
- 校内でトラブルがあった時、すぐに駆けつける方だ。
- 生徒に話をするより、まずは生徒の話聞くようにしている。
- 生徒の話に感心したり、学んだりすることがある。
- 生徒との対応で終わりとせず、次の対応を想定している。

○講義を受けたことで変わったこと （受講者振り返りアンケートより）

- 生徒指導は指導グループに任せていけばよいと思っていた。教員一人ひとりが個の生徒指導力を付けなければいけない。
- 生徒指導の内規があることは知っていたが、きちんと読んでいなかった。まずはしっかり読んで、学校としての方向性を確認し、それをもとに指導にあたりたい。
- 生徒指導を行う上で、どのように対応するべきか判断できないことが多かったが、生徒指導基準を読んでいない自分に責任があることが分かった。
- 「この学校の生徒は・・・」とよく文句を言っていたので改める。分からない授業は生徒にとって苦痛であり、生徒は「困っている」ことがよく分かった。
- 学校全体で共通した基準で指導していくことが大切だと思った。
- 授業が生徒指導に大きく関わるということが分かった。
- 指導は後手に回ってはいけない。その場の指導は当たり前であり、その先の指導も考えられるようになりたい。
- 生徒指導は問題を起こす生徒に対するものだけでなく、学校生活全体を通して行うものだということが分かった。
- 気づいた時にすぐ声を掛けること、説明責任を果たしていくことが大切だとわかった。
- 私は生徒指導グループなのですが、最近、グループの他の教員との意思疎通が大変大事だと感じています。やはり、学校全体で生徒指導に取り組むことが大切だと思いました。

校内研修テーマ：「生徒指導基準（内規）等に関する研修」

○課題

生徒指導の基盤は「生徒理解」ですが、それを深めるためには校内でどのような取り組みが必要かを考えてみましょう。

また、一人ひとりの教員は組織の一員として、「生徒指導基準（内規）」のもと、「全体の生徒指導」と「個の生徒指導」とが一致することで、ぶれない生徒指導が実現することを確認しましょう。

○身に付けて欲しい力や考え方

・生徒理解

生徒を理解することは、生徒が共感できることや生徒が求めていることに気付くことです。

・勤務する学校の生徒像の理解（生徒の現状、指導の目的、方針、育てたい生徒像）

自校の「生徒指導基準（内規）」を必ず読み、自分自身の生徒指導に対する姿勢を確認しましょう。

・「個の指導」と「全体の指導」の一致

教員間で共通理解し、組織の一員としての自覚をしっかりと持ちながら、ぶれない指導を心掛けましょう。

・生徒や保護者との信頼関係の確立と説明責任

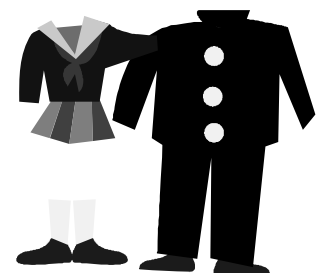
まずは寄り添い、共感し、信頼関係づくりに努めるとともに、説明責任の重要性を理解し、原因、問題、課題を明確にすることに努めましょう。

○校内研修への提案

その1

頭髪や制服等に関する校則の指導について

- 1 頭髪や制服等に関する校則の意義を協議してみましょう。
- 2 「1」で確認した意義について、生徒へ説明する際の説明の仕方を検討してみましょう。そして、それについてロールプレイングを行い、それを観察して、感想などを出し合いましょう。
- 3 頭髪や制服等に関する校則の指導方法について検討してみましょう。
 - ①頭髪や制服等に関する校則の指導方法として、考えられる方法を付箋に記入していく。（付箋1枚に1つ）
 - ②付箋を整理し、各指導方法のメリット、デメリットを確認する。
 - ③本校の実態を考えあわせて、本校における効果的な指導方法を探っていく。



その2

生徒指導上の事例について、 その対応を考え協議しよう。

(事例)

1年の男子生徒Aは、2年の男子生徒Bの日ごろの行動や自分への接し方に対し不満を抱いていた。その理由は、体力的には弱そうなのに威張っている、貸した漫画を返さない等、些細な出来事の積み重ねであり、要するに「気に食わない」先輩であった。

Aが不満を抱いていることを知った2年の男子生徒Cが両者をけしかけ、「話し合い」で決着をつけることになった。AがBに呼び出される形で学校近隣の人気のない場所に出かけた。数百メートル距離を置いて、A・B双方の友人も見に行った。上級生のBは「何か文句があるのかよ」と切り出したが、手は出さなかった。Bは実際にはケンカに自信がなかった。しかし、Aから「震えてますよ」などと何度か挑発されるうちに、引っ込みがつかなくなりBが先にAの胸ぐらをつかんだ。続いて殴ろうとしたがうまくかわされ、逆に数発こぶしで殴りかえされてしまった。そのうちの1発が顔面をとらえ、Bは歯が欠けるほどの怪我を負った。

そこへ、偶然、車が通り、Aはすぐにその場から逃げた。遠くから取り巻いていたA・B、双方の友人らも逃げ去ってしまった。Bはしばらくうずくまっていたが、自力で学校に戻り、保健室にやってきたので、事態が判明した。

弁明としてAおよびAの保護者は、「先に手を出したのは、向こうであり、こちらには反省すべき点はない」したがって「罰であっても、指導であっても特別指導は受け入れられない」と主張し続けていた。

協議事項

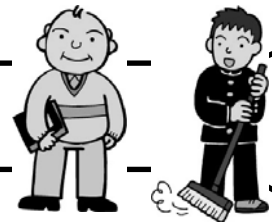
- 1 この事例について、生徒A、B、C、その他の生徒のそれぞれの関わり方を整理し、各学校の「生徒指導基準（内規）」を確認した上で、それぞれにどのような指導をすることが適切か、検討してみましよう。
- 2 生徒AおよびAの保護者にはどのような対応が考えられるか、検討してみましよう。
- 3 「1」の指導内容を受けて、生徒A、B、C、その他の生徒の各ホームルーム担任は、それぞれの生徒に対してどのような指導、あるいは関わり方が必要か、検討してみましよう。

講義・演習「生徒理解のための対話」～共感的な対話による生徒理解～

○研修のねらい 教員が生徒理解を深め、また、生徒が自己肯定感を高めながら主体的に自己理解を深めていくような「共感的な対話」を知ることで、ホームルーム担任、教科担任として生徒と関わる力を身に付けることをねらいとする。

○身に付けて欲しい力や考え方

- ・対話を通して、生徒の思いを肯定的に受け止め、問いかけによって気づきを促し、生徒が主体的に自己理解を深められるような「共感的な対話」について学びます。
- ・模擬事例やロールプレイングを通して、共感的な対話となるような応答を考えることで、実際の場面で活用できる力を身に付けます。
- ・対話を継続的に積み重ねることで、教員の生徒理解も深まり、生徒の自己理解も深まっていきます。生徒理解の深化は信頼関係の土台であり、生徒が自己理解を深めていくことは生徒の課題解決能力の向上へのきっかけとなります。



○講義の概要

- 1 共感的な対話とは、指導的に助言を行うのではなく、受容と問いかけによって生徒自身が答えを出していくものです。
共感的な対話のキーワード：傾聴、受容、肯定、支持、共感、問いかけ
- 2 第1段階の対話のねらい：対話を通して、自分の思いや考えを誰かと共有する体験を積みみます。「理解してもらった」、「そう思って良いんだ」と思える体験が『自信』や、『自己承認』につながります。→『自己肯定感』を高めていきます。
- 3 第2段階の対話のねらい：対話を通して自分に向き合い、『自分の考え方の傾向』や『自分の得意・不得意』を知ります。→『自己理解』を深めていきます。
- 4 タイプ別の配慮
 - よく話す生徒：話題が広がらないよう、優先事項を整理していくことで、対話の深まりが得られ、分かってもらえたという実感を持てます。
 - あまり話さない生徒：待つことで、話せた、待ってもらえたという成功体験ができます。『今は保留』も認めましょう。
- 5 体験しましょう
場面を設定して応答を考えます。様々な立場でロールプレイを行い、共感的な対話を体験します。

○講義を受けたことで変わったこと

(受講者振り返りアンケートより)

- ・聴いてくれている、気にかけてくれているという雰囲気が会話の中で感じられるというのを感じた。
- ・傾聴してうまくいくのも、やはり日々の生徒との人間関係の積み重ねの上に成り立つように感じた。
- ・生徒との会話には時間をかけるよう注意を払っているが、生徒の状態を引き出すような事柄を語りかけることが大事で、また時間を決めて話すことも大事だということがわかった。
- ・ロールプレイングを通して、反抗的な態度を取る生徒も怒っているだけでは無いのだと感じた。
- ・自分の考えを伝えたいという気持ちが強くなってしまいがちですが、しっかりと共感的に聴くことがとても大切だと感じたので、会話のポイントを意識していきたい。
- ・一回の対話で全てを解決させる必要が無く、複数回積み重ねることで、より理解が深まることを知った。
- ・何気ない雑談が意外と大切で情報源であるということを知った。
- ・生徒の相談には必ず何か適切なアドバイスをしなくてはならない気がしていたが、もっと聴くことに重点を置こうと思った。
- ・教師は常に生徒に『指示』するのではなく、『支持』するという理解は新鮮だった。サポート者としての自覚も高めていきたい。

明日からの 教育実践へ

生徒と対話をしよう！

- ①まずは何気ない「ひと声」から！
- ②「共感的な対話」を積み重ねよう！
- ③対話を振り返り、次の対話にいかそう！

リンク先

- ・「生徒の自己理解を促す 共感的な対話」（平成 24 年度研究成果物）
総合教育センターホームページよりダウンロード
- ・小林昭文著 2004 年「担任ができるコミュニケーション教育」
(ほんの森出版)
- ・斎藤清二・西村優紀美・吉永崇史著 2010 年
「発達障害大学生支援への挑戦」（金剛出版）



○校内研修への提案

その1

共感的な対話について知ろう

- ・冊子『生徒の自己理解を促す 共感的な対話』を使って、共感的な対話について知りましょう。



※総合教育センターHPよりダウンロードできます

その2

生徒との共感的な対話を想定した
ロールプレイングを体験してみよう

- ・冊子『生徒の自己理解を促す 共感的な対話』中の対話例を使い、ロールプレイングをしてみよう。
- ・シナリオを考えて、共感的な対話を体験してみよう。
生徒役と、教員役になって場面を設定して、ロールプレイングを体験します。

※観察者がいることも大切です。実施後、観察者と共に振り返ってみてください。

〈上記冊子「生徒の自己理解を促す 共感的な対話」より抜粋〉

共感的な対話とは

◎「答える」のではなく「応える」

◇答えを伝えるのではなく、気持ちに応える。



◎「受容」＋「問いかけ」によって生徒が答えを出していく

◇指導的に助言を行うのではなく、生徒の思いを肯定的に受け止めながら聴き、問いかけによって、生徒が自分で答えを出していく。

◎生徒の語りの「再構成」

◇生徒本人の中に「気づき」や「変化」を促し、持っている力や可能性を引き出す。

◇生徒本人が語るストーリーを前向きな捉えに「再構成」する手伝いをする。

「共感的対話」のキーワードは…

傾聴

共感

受容

支持

肯定

問いかけ

「共感的な対話」の第1段階 対話の土台作り

【ねらい】 対話を通して自分の思いや考えを共有する体験を積み、「分かってもらえた」「そう思っているんだ」と思える体験から、『自信』をもち、『自己承認』できる。

『自己肯定感』を高めていく

対話のポイント

- 1 話題は何でもあり
- 2 生徒の話をも肯定的に認めながら聴く
- 3 「受け止めた」というメッセージを伝える
- 4 語られることばの背後にある感情を汲み取る
- 5 話題の側面にも目を向ける



※【対話の基本】

傾聴・共感・受容によって安心して語れる場を提供する

「共感的な対話」の第2段階 発達援助的な関わり

【ねらい】 対話を通して自分に向き合い、「自分の考え方の傾向」や「自分の得意・不得意」を知る。

『自己理解』を深めていく

対話のポイント

- 1 困りを『十分に共有』してから、今できることを一緒に考えていく
- 2 生徒が使った言葉を使う
- 3 生徒の内面を訊く（問いかける）
- 4 話題の明確化・焦点化
- 5 リフレーミング（違う枠組み^{フレーム}で見ると）
- 6 とりあえずの方策を具体的に確認し、支持する



※【変化をキャッチする】

対話時の態度からも生徒の変容を見る
教員の「自分の中の変化」を大切にする

【かながわの生徒指導 Ⅲ—③:生徒理解の深化】

講義・演習 「チーム支援とケース会議」

○研修のねらい ケース会議の演習を通して、生徒の理解とチームによる支援についての意義と手法について理解する。

○身に付けて欲しい力や考え方

- ・ホームルーム担任はクラスの生徒に対して責任を持っています。しかし生徒の支援を一人で行うには限界があります。生徒に関わる様々な人と共に情報を共有し、多面的に生徒を理解し、一致した方針の下で対応を考え、役割を分担して支援していく必要があります。
- ・ケース会議の方法を理解し、生徒の支援を進めることができるようにします。また、短時間でも回数を重ねることで、より良いケース会議を行う力を付けることができます。
- ・チーム支援を進めるには、日頃から相談できる雰囲気や声かけができる職場づくりを行うことが大切です。



○講義の概要

講義・チーム支援の意義

生徒の支援が必要な時、担任一人の情報だけでは、不十分です。また、一人で行える支援にも限界があります。そこで一致した方針の下、チームで支援していくことが必要になります。

・ケース会議

生徒に関わる人たちで集まり、情報を整理し、「生徒が困っている」という視点を共有します。困った生徒→困っている生徒への視点の転換をします。一致した方針を立て、明日からできそうな具体的な支援策を考えていきます。

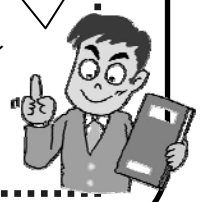
演習・模擬事例によるケース会議

模擬事例を使い、簡易シートを使ったケース会議をグループで行い、ケース会議の手法について理解します。

ケース会議の前に
参加者全員で必ず
確認しましょう

ケース会議のルール

困っている生徒の支援を目指していく / 具体的な話し合いにする / 一人だけで話さない /
他の人の発言を否定しない / 発言は短くわかりやすく多面的な視点から意見を出す /
共感的に話を聞き、認め合う / いろいろな人が関わることでできる支援策を考える



リンク先

- ・石隈・田村式援助シートによるチーム援助入門—学校心理学・実践編—
石隈利紀・田村節子著 (図書文化社 2003年)
- ・はじめよう ケース会議 Q&A 総合教育センター平成20年度研究成果物
- ・はじめようケース会議 DVD (総合教育センターカリキュラム開発センターでDVDにコピーできます)

○講義を受けたことで変わったこと

(受講者振り返りアンケートより)

- ・ケース会議にネガティブなイメージを持っていたが、複数の先生の意見が聞ける良い機会だと分かった。
- ・何名かの意見を聞くことでさらに考えが広がった。チームを作ることの重要性が分かった。
- ・生徒だけでなく、職員同士のコミュニケーションの大切さを実感した。
- ・シートにまとめることで、その生徒に対する理解度を視覚的に判断できると感じた。
- ・方針を決めて、ぶれないように方策を立てること、チームで取り組む際には入念に共通理解を持つことが必要だと分かった。
- ・以前出席したケース会議では、担任の苦勞が語られ、解決の糸口が見つからなかったが、短期的な具体的方針があると、生徒の支援に向けて前向きに話し合えることができると思う。
- ・担任などの業務を持たされると、どうしても一人で何でもこなさなければならないと思いがちだが、教科担当や部活動の先生と時間を取って会議をするのは有効だと感じた。
- ・一人の生徒についてのケース会議であったが、支援策を考えるに当たって考えていく対象は、親であったり、まわりの生徒だったりと本当に多いことを感じた。
- ・ケース会議を行うことで、生徒への対応を共有でき、今後、同じような状況に生徒がならないように予防することもできると思う。
- ・今後の支援を「良いところ」を活用して考えていく、というのが新鮮だった。「支援」というと教師側が生徒のできないことに今まで以上に寄り添ってできるようにする。というイメージが強かったですが、生徒の「良いところ」を今以上に伸ばすと考えると「支援」の具体的なイメージが持てるようになった。

明日からの教育実践へ
「ケース会議をやってみよう！」



<具体的な支援につながるケース会議のポイント>

- ・事前に子どもの学習面や生活面などの情報を集め援助シートに書き込んでいくと、児童・生徒の状況を把握しやすくなります。
- ・会議では視覚的に情報を共有できるツールを用意しましょう。例：ホワイトボード、ケース会議シート(次ページ参照) など
- ・ケース会議の前に話し合いのルールを確認しましょう。(前ページ参照)
- ・最初にケース会議の目的や時間配分、終了時間を確認してはじめましょう。
- ・子どもの情報から子どもの良い点、強みをいかして、チーム支援の視点で明日からできそうなスモールステップの具体的な支援策を考えます。
- ・1ヶ月など期間を決めて、取り組みを振り返り、再び次の目標や支援策を考えます。
- ・1回目で支援方針や支援策が決まらなくても、その経験をいかして、次の会議に臨むことで、有意義な会議になっていきます。

ケース会議シート1 (情報のまとめ)

年 男・女 氏名 ()	第 回	実施日	月	日 ()
良いところ		学校		
生徒の様子		生徒にかかわる人的資源		
気になるところ				その他
その他 (家庭環境、生育歴、中学校からの情報、進路等の情報)				
現在行っている支援				

苦戦していること

苦戦していることの要因

ケース会議シート2 (支援方針と支援案)

支援の方針	
-------	--

場	今後の支援	誰が行うか	期間

協議 「生徒理解とチームアプローチ」

○研修のねらい

生徒指導に関する現状・課題に関する情報交換と、その対応について理解を深める。

○協議の進め方

- ・テーマ：「これからの生徒指導に向けて」

話し合いの入り口では、各学校の現状紹介をし、その後の話し合いの方向性としては、現状を踏まえた未来志向の姿勢で、テーマに向かって意見交換するように伝える。

- ・話し合いの形式：「ワールドカフェ」

(1グループは4～5人で編成し、テーブルを周りから囲むように椅子をセットする。)

- ・必要な物品：〈全体〉 鐘、タイマー（時計）

〈各グループ〉トーキングオブジェクト（片手に持てる大きさのぬいぐるみ等）、カラーマジックペン、模造紙

- ・進め方とルール：

〈進め方〉

※ファシリテーターが進めていきます。

- ① 話し合いは約 10 分を3回行う。1回目が終わり2回目に入る時、グループのメンバーのうち1人はストーリーテラーとして、そのグループに残り、他のメンバーはそれぞれ全く異なるグループに移る。2回目から3回目に入るときも同様。2回目、3回目の最初にストーリーテラーは前の話し合いの様子を1分程度で、新メンバーに伝える。

- ② 3回の話し合いが終わったら、約2分で話し合いの様子を全体に発表する。

〈ルール〉

○話すときは「トーキングオブジェクト」を手を持ち、持たないときは話してはいけない。

○他人の意見は批判しない。

○話し合いの中で見出したキーワード等を自分のペンで模造紙に書き込んでいく。

「ワールドカフェ」について

「ワールドカフェ」とは、カフェ的なおだやかな空気の中で、参加者がルールに沿って自由に会話を行い、創造的なアイデアや知識を生み出したり、深めたりできる話し合いの方法です。

「ワールドカフェ」では、話し合いの間口を広くしておくことで、自由な発想ができるようにすることが重要です。そのために、テーマは漠然としていた方が幅広い意見を出し易いでしょう。

「ファシリテーター」について

「ファシリテーター」とは、集会や会議などで、テーマや議題に沿って発言内容を整理し、発言者が偏らないように順調に進行するように口添えする役とされています。今回の場合も、進行役ととらえます。

○協議に参加したことで変わったこと

(受講者振り返りアンケートより)

- ・理想及び具体的な手立てを同僚内で話し合う場を学校内でもっとつくる。
- ・今ならできること、今から取り組んで次年度に続けていくことを明確にすること。「生徒の変容を待つ」という姿勢で、思い切って生徒に任せてみる。
- ・生徒指導は問題を起こした生徒だけに行うのではなく、公平に生徒全員に行うものだとあらためて分かった。
- ・将来を見据えた指導をしていきたいです。
- ・まわりにパスを出し続けようと思う。
- ・「足並みがそろってないからできない」のではなく、自分が教員としてどう向き合いたいかが大切だと思った。
- ・一人で抱え込まず、チームで動くことが自分にとっても生徒にとってもプラスになる。
- ・まずは自分の軸を決めること。
- ・様々な学校の考え方があり、いろいろと考えさせられた。正解はない問題への取組みはいくら意見があっても良いと思った。
- ・たくさんの仲間の意見を聞くことができ、同じようなことで悩んでいた、困っていたりするんだなというのがわかって心強かった。
- ・目先のことだけを考えるのではなく、先のことをしっかり考えて行動する。
- ・人間同士の関わりを大切にすべきであるということ。教員側からも生徒から学べる必要があるということ念頭においていきたい。
- ・同期が生徒指導で様々な困難にぶつかっていることを知った。
- ・経験年数が近いだけあって、とても話の内容にうなずけた。4名の話聞いて思ったことは、担任は大変だけど、やってみることで色々な視点を考えさせられるということだった。試行錯誤しながら、生徒へのアプローチをいろいろ工夫してみたいと思った。

※話し合いの手法に関して

<受講者の意見>

- ・「ワールドカフェ」「トーキングオブジェクト」「BGMの効果」など、新鮮なチームアプローチでした。BGMの効果は授業やHRで活用できそうだと感じた。
- ・「ワールドカフェ」の手法はとても面白かったので、授業に取り入れて行きたい。また、様々な先生の意見を聞くように心掛けたい。
- ・各教員間で意見が異なるが、「ワールドカフェ」形式にすると相手の話を受け止めることができた。

<ファシリテーターの意見>

- ・リラックスした、くつろいだ雰囲気ができるだけ高めて対話しやすい空気づくりを心がけた。
- ・ワールドカフェという名称の意味を説明し、一つの答えを求めるものではなく、視野をひろげることを目的とした方法であることを念押しした。
- ・トーキングオブジェクトを握ることでリラックス感が生じ、発言しやすい受講者もいた一方、持つことに照れを感じる受講者もいたことから、トーキングオブジェクトの意味合いについてもっと説明が必要だった。
- ・生徒指導の内容や視点が、学校により千差万別であることに気付いたり、驚いたりしている様子が多く見受けられ、この手法の有用性を感じた。



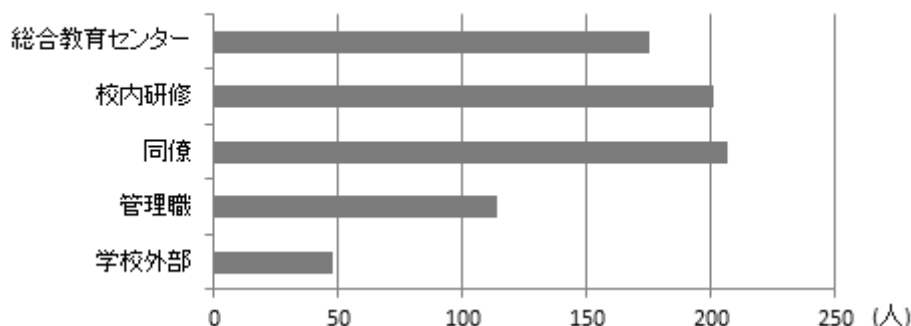
○課題

「生徒指導が大変ではない学校」、「生徒指導が必要ない学校」という表現をする教員が時折います。しかし、生徒指導は、生徒の人格の完成をめざし、一人ひとりの自己実現に向けた自己指導能力の育成をその目的とする教育活動なのですから、「生徒指導が大変ではない学校」や「生徒指導が必要ない学校」があるはずはありません。ただ、各学校が力を入れる部分や具体的な指導の方法等は、その学校の状況により異なるのは確かなことです。

各学校が生徒指導のどんな部分に注目し、力を入れて進めていくべきなののかについて、日々関わっている生徒の様子をしっかりとらえ、意見交換の場を設けることで、その学校の生徒指導の在り方の方向性が見えてきたり、具体的な取組みを進めるためのパワーが充電されたりするのではないのでしょうか。

下図は総合教育センターが初任者に実施したアンケート結果を示したものです。これによると、生徒指導について、初任者が校内研修に寄せる期待は非常に大きいことが分かります。その理由は、各学校の実態を踏まえたテーマや事例が設定できたり、何より身近な同僚の先生方の意見や考え方を確認できたりするためでしょう。是非、活発な校内研修を展開してください。

Q 生徒指導に関する知識や技術をどのようにして学んでいこうと考えていますか？
(アンケート回収数：251人)



○身に付けて欲しい力や考え方

- 校内研修の活発な意見交換により、同僚性を高めることが、その後の具体的なチームアプローチを取り入れやすい雰囲気生まれることが期待されます。
- 「生徒指導」というと、とかく、問題行動や教育相談の部分だけをイメージしやすいが、各学校の生徒の実態を十分に踏まえ、さらに伸ばしていきたい力や、新たに開発していきたい分野などにも着目します。生徒の自己指導能力の育成や自己実現に向けた指導の在り方を検討することで、学校の実態に即した生徒指導の在り方の研究が進んでいくことが期待されます。
- 若手教員が今後、さまざまなタイプの学校への勤務の可能性のあることを考慮し、若手教員育成の視点に立った校内研修の実現が期待されます。

○校内研修への提案

＜校内研修の第一歩

：生徒指導に関する校内研修のテーマをみつけよう＞

※協議には様々な方法がありますが、ここでは三つの方法をご紹介します。

その1「ブレインストーミング→KJ法」

①ブレインストーミングで、意見を発散する。例えば、「本校の生徒指導に関して、職員全体で考えたいこと」というテーマを設定し、一つの意見を1枚の付箋に書いていく。

※「ブレインストーミング」とは？・・・参加者が気楽な雰囲気の中で固定観念を排除し、自由な思いつきやアイデアを出し合う方法。

②集まった付箋をKJ法に従って整理する。

※「KJ法」とは？・・・様々なアイデアをカードに記入し、それらを共通のものでまとめていき、新たな仮説等を発見しようとする手法。

その2「ワールドカフェ」

＜テーマ例＞

「▽○高校にとって、生徒指導とは？」 「生徒指導について、今、考えていること」
「生徒指導って何だろう」

※取組方法は「協議『生徒理解とチームアプローチ』」をご覧ください。

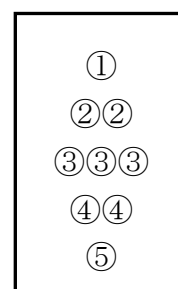
その3「ダイヤモンドランキング」

①生徒指導の具体的な取組みとして9項目をあげる。全体的話し合いの中から9項目を探し出すことも可能だが、研修会主催者などで決めておくことも可能。

②9項目の優先順位（右図のようにダイヤモンド型にランキング）を個人で考える。

③4～5人で1グループを作り、優先順位のグループ案をつくる。その際、そのように考えた理由も併せて考える。また、その話し合いでは、多数決などは行わず、説得と納得を原則とする。

④最後に全体で共有する。



＜ダイヤモンドランキング＞

初任者がさらに望んでいる研修とは？

平成24年度初任者研修講座高等学校の最終の研修日において実施したアンケート結果によると、1年間に実施した総合教育センターの「生徒指導」に係る研修の他に、受講者が更に学びたいと答えた「生徒指導」関係の内容のうち、記述が多かったものは次の項目でした。

- 部活動における生徒指導
- 対応が難しい生徒（無視、反抗等）に対する指導方法
- 学習障害などを伴う発達障害について
- 生徒への具体的対応の仕方（叱り方、質問の仕方、納得させる話し方等）
- ホームルーム経営に関する、より具体的な取組みについて
- 携帯電話やオンライン等によるいじめについて

等

平成 24 年度初任者研修講座（高等学校）生徒指導プログラム

	講座名	講師
総論	【かながわの生徒指導 総論-1】 講義「『かながわの支援教育』を基盤とした 生徒指導の在り方」	総合教育センター 指導主事
	【かながわの生徒指導 総論-2】 講義「これからの生徒指導」	大学教授
Ⅰ	【かながわの生徒指導 Ⅰ-1】 講義「授業における生徒との信頼関係づくりの工夫」	総合教育センター 指導主事
	【かながわの生徒指導 Ⅰ-2】 講義「保護者との連携と対応」	総合教育センター 指導主事
	【かながわの生徒指導 Ⅰ-3】 実践報告「一人ひとりの生徒を生かした ホームルーム経営の実践」	県立高等学校 教頭
	【かながわの生徒指導 Ⅰ-4】 講義・協議「ホームルーム経営の基礎」	総合教育センター 指導主事
Ⅱ	【かながわの生徒指導 Ⅱ-1】 講義「問題行動等の未然防止を中心とした 児童・生徒理解の在り方」	学校支援課 専任主幹・ 指導主事
	【かながわの生徒指導 Ⅱ-2】 講義・演習「生徒同士の間関係づくり」	県立青少年センタ ー指導者育成課 職員
Ⅲ	【かながわの生徒指導 Ⅲ-1】 講義「『かながわの支援教育』と教育課題 ～不登校対応について～」	総合教育センター 指導主事
	【かながわの生徒指導 Ⅲ-2】 実践報告「生徒指導グループとの連携」	県立高等学校 総括教諭
	【かながわの生徒指導 Ⅲ-3】 講義・演習「生徒理解のための対話」	総合教育センター 指導主事
	【かながわの生徒指導 Ⅲ-4】 講義・演習「チーム支援とケース会議」	県立高等学校教育 相談コーディネ ーター総合教育セン ター指導主事
Ⅳ	【かながわの生徒指導 Ⅳ-1】 実践報告「組織的な生徒指導を実践するために」	県立高等学校 生徒指導グルー プ総括教諭、教諭
	【かながわの生徒指導 Ⅳ-2】 協議「生徒理解とチームアプローチ」	総合教育センター 指導主事